

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】令和2年7月27日(2020.7.27)

【公開番号】特開2019-12897(P2019-12897A)

【公開日】平成31年1月24日(2019.1.24)

【年通号数】公開・登録公報2019-003

【出願番号】特願2017-127725(P2017-127725)

【国際特許分類】

H 0 4 N 5/232 (2006.01)

H 0 4 N 7/18 (2006.01)

G 0 3 B 15/00 (2006.01)

G 0 3 B 11/00 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/232

H 0 4 N 7/18 E

H 0 4 N 5/232 4 5 0

G 0 3 B 15/00 S

G 0 3 B 11/00

【手続補正書】

【提出日】令和2年5月26日(2020.5.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

撮像部と、

赤外光を発する発光部と赤外線を受光する受光部とを備え、前記撮像部近傍に配置された近接センサと、

前記撮像部近傍にて環境光の照度を測定する照度センサと、

前記近接センサの出力と予め設定された基準値との差分の絶対値が所定の閾値以上であることに基づいて、前記撮像部を視野妨害する画策異常と判定する画策異常判定手段と、前記基準値を更新する基準値更新手段と、

前記照度センサによる前記赤外光成分の前記照度を監視する環境判定手段と、を有し、前記基準値は、前記画策異常と判定されていない状態での前記近接センサの出力に応じて設定され、

前記基準値更新手段は、前記照度の赤外光成分の値が所定値以上である場合に、前記基準値を更新すること、

を特徴とする監視カメラ装置。

【請求項2】

前記近接センサは、前記発光部の発光時と非発光時とでの前記受光部の赤外線受光量の差分値を所定時間積分した値を出力し、

前記基準値は、前記画策異常と判定されていない期間における前記近接センサの出力の平均値であること、を特徴とする請求項1に記載の監視カメラ装置。

【請求項3】

前記近接センサの前記出力が飽和状態であることを判定する飽和判定手段を有し、

前記基準値更新手段は、前記近接センサが前記飽和状態ではない場合に、前記基準値を

所定の時間間隔で更新する一方、前記近接センサが前記飽和状態である場合に当該更新を停止すること、

を特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の監視カメラ装置。

【請求項 4】

前記近接センサと前記照度センサとは一体に形成されたセンサ素子であり、前記近接センサの出力と前記照度センサの照度とを交互に出力すること、を特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 つに記載の監視カメラ装置。

【請求項 5】

前記照度センサはさらに、前記環境光の可視光成分の照度を測定し、

前記監視カメラ装置は、赤外線カットフィルタを前記撮像部の光学系に挿入して撮像を行うデイモードと、赤外線照明を発光させて撮像を行うナイトモードとを切り換えるデイナイトカメラであって、前記照度センサによる前記可視光成分の照度に基づき前記デイモードと前記ナイトモードとを切り替える切替部を備えること、

を特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれか 1 つに記載の監視カメラ装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

(3) 上記(1)又は(2)に記載する監視カメラ装置において、前記近接センサの前記出力が飽和状態であることを判定する飽和判定手段を有し、前記基準値更新手段は、前記近接センサが前記飽和状態ではない場合に、前記基準値を所定の時間間隔で更新する一方、前記近接センサが前記飽和状態である場合に当該更新を停止する構成とすることができる。